

## 大松明の炎と鴨川の水 ～祇園祭『神輿洗式』

NPO 法人環境カウンセラーズ京都  
理事長 金田 由紀夫

### 【プロローグ】

平成26年から前祭と後祭が再び分かれて開催されるようになった祇園祭。今年も山鉦33基がお囃子～鉦・締め太鼓・笛の音と共に都大路を練り歩く山鉦巡行の後に、疫神怨霊を鎮める神事・神輿渡御があった。主役・三基の神輿にお乗りになった神々が御旅所へ、そして再び八坂神社に。後祭の夜に行われる御霊還しの儀式は、結界が張られた神の道を通して、舞殿から本殿の社へお戻りになる。神社の明かりがすべて消された静寂・漆黒の中で行われたこの儀式で、祇園祭は1ヶ月間の幕

を閉じた。

今回は、

①素戔嗚尊スサノヲノミコトがお乗りになる中御座神輿ナカゴザミコシと鴨川の水／大松明の炎

②鴨川改修前と改修後

この2点について、資料を引用して鴨川の姿を紹介する。

### 1. 神輿と関わる鴨川の水と大松明の炎

【神輿洗】に使われる「御神水」を汲む場所は、四条大橋が掛かる南側である。



写真1 四条大橋上の中御座神輿「神輿洗式」  
ミコシアライシキ



写真2 御神水の祭壇 鴨川堰堤－四条大橋下ル東



写真3 三基の神輿—八坂神社 石段下にて

八坂神社から最も近い鴨川の川筋であったことから、四条～五条大橋間を特に宮川と呼んだと聞く。現在もこの川沿いの東小路を宮川筋と呼び、

一丁目～八丁目まで続く。(筆者は、西後座神輿氏子地区である宮川筋に住まいし、毎年お供で神輿に随行している。)

神輿洗に向かう中御座神輿が通る道を、二抱えもある3m超の巨大松明を横向きのまま担ぎ手が清めていく。この【道調べの儀】は、まるで炎の塊が地を焼き、道を燻し天を焦がす火の神が通るが如きである。榊で神輿に降りかけられた水と神輿を先導する松明は、無病息災の厄除けになると云われている。

## 2. 鴨川改修前と改修後

鴨川の被災状況を先の寄稿 (No.156, pp.34-37) で触れたが、被災翌年の昭和11年より10余年を費

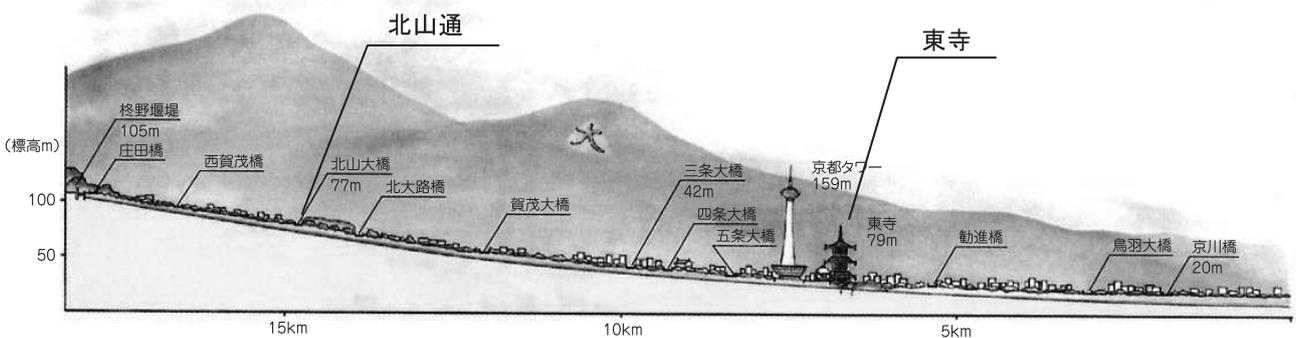


図1 鴨川の河床勾配 (東寺の五重塔頂上 (57m高) と8km上流の北山通がほぼ同じ標高となる)

【整備前】



【整備後】

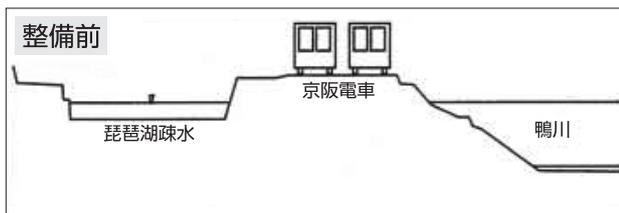


図2 京阪電車地下化に伴う河川改修と『花の回廊』整備前と整備後 (松原橋～五条大橋付近)

やした改修事業を引用したい。

特筆すべき点は、“京都府の鴨川改修に関する稟請書”の礎となった次の2項目である。

- 京都を本邦唯一の国際的観光都市とする
- 京都の優雅なる情景を保持する

鴨川の流域は、北山／東山の山地と氾濫により形成された扇状地からなる。流域のほぼ70%を山地、残りの30%の平地に京都の市街地が形成されている。

上流の溪流河川より流出した水脈に対して、石積み護岸とし、川底の地盤安定を目的に洪水等浸

食防止や川の勾配を緩和させるため、落差のある川底とした。

これらの本格的な治水対策が、平成4～11年にかけて改修工事でも行われた。

繊細・果敢な行政力が活かされ、鴨川の周辺景観と調和に配慮が行き届き、四季折々の花木と水面を愛でながらの散策が楽しめる『花の回廊』が目前にアップされる。

京都にお越しの折は、是非とも鴨川の散策を楽しんでいただくことを願っている。

#### 〈参考文献〉

- 1) 洛中洛外の世界 京都府立資料館 昭和50年10月14日発刊
- 2) 京都文化伝統百科事典
- 3) 神輿洗い 京都府HP
- 4) 京都と鴨川 第一章-京都府
- 5) 清々講社宮川組資料

### 鴨川と賀茂川の違い！

「鴨氏という豪族が住んでいたのので、鴨という地名がつき、鴨川となった（京都市歴史資

料館）。高野川合流点（下鴨神社のあたり）から上流を賀茂川、下流を加茂川と使い分け（江戸時代）、「賀茂」、「加茂」、「鴨」と、その字を変えることで、どの場所を流れているのかを分かりやすくしていたとも言われている。なお、地図では、高野川合流点より上流が“賀茂川”、下流が“鴨川”と表示されている。



出町柳付近で賀茂川、高野川、鴨川  
(鍵谷作成)



出町柳の賀茂大橋から賀茂川と高野川  
(鍵谷作成)